アインストーン Primary
詳細はここをクリック！

6 日本の農業

1 日本の稲作

(1) **日本の米づくり**…作付面積の約40%，農業生産額の約20%をしめる。全国で行われているが，特に冬に雪が多く降る地域でさかん[1]。
（畜産，野菜，米，果物の順に多い）（東北地方，新潟(にいがた)県，北海道など）

(2) **米づくりの工夫**…地域の農家が共同で農業機械を購入するなど，効率のよい農業。品種改良や有機農業など，おいしく安全な米をつくる。
（化学肥料(ひりょう)や農薬を使わない農業）

(3) **米づくりの課題**…米の消費量が減って，米があまるようになったため，米の作付面積を減らし，米以外の作物をつくる転作が行われた[2]。

2 日本の畑作と畜産[3]

(1) **野菜づくり**…全国で，産地の特色を生かす。

(2) **近郊農業**…大都市周辺で行われる。大消費地に近く，新鮮なうちに安い輸送費で届けられる。

(3) **促成栽培・抑制栽培**…ほかの産地と出荷の時期をずらすことで，高い価格で取り引きできる。

① 促成栽培…冬でも暖かい地域で，ピーマンやきゅうりなどを冬から春にかけて出荷。
（ビニールハウスなどを利用）

② **抑制栽培**…夏でもすずしい地域で，レタスやキャベツなどを夏に出荷。

(4) **果物づくり**…気候のえいきょうを受けやすいので，産地に特色がある。

(5) **畜産**…広い土地がある地域でさかん。

3 各地方の農業[4]

(1) **北海道地方**…大規模な農業。石狩平野で稲作，十勝平野で畑作，根釧台地で酪農。
（乳牛を育て，乳製品をつくる）

(2) **東北地方**…稲作。果物の生産量が多い。

(3) **関東地方**…近郊農業で野菜の生産がさかん。

(4) **中部地方**…北陸で稲作，愛知県で近郊農業，長野県で抑制栽培。果物の生産もさかん。
（山梨県(もも，ぶどう)，長野県(りんご，ぶどう)，静岡県(みかん)）

(5) **近畿地方**…大都市周辺で近郊農業。和歌山県でみかんの生産量が多い。

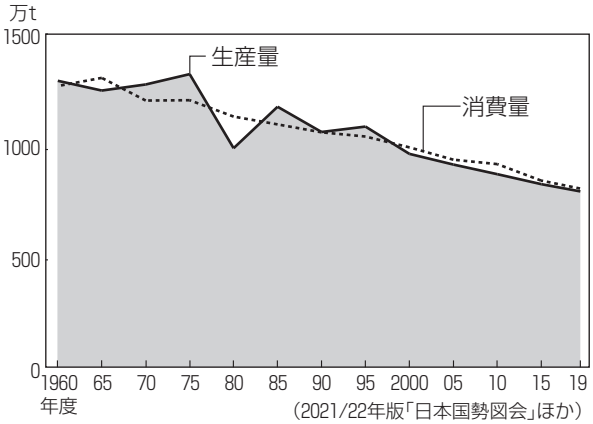
(6) **中国・四国地方**…瀬戸内地方で果物の生産，高知県ではピーマンやなすの促成栽培がさかん。
（みかんやレモンなど）

(7) **九州地方**…宮崎県，鹿児島県で畜産がさかん。
（促成栽培もさかん）

1 米の生産量の地方別割合

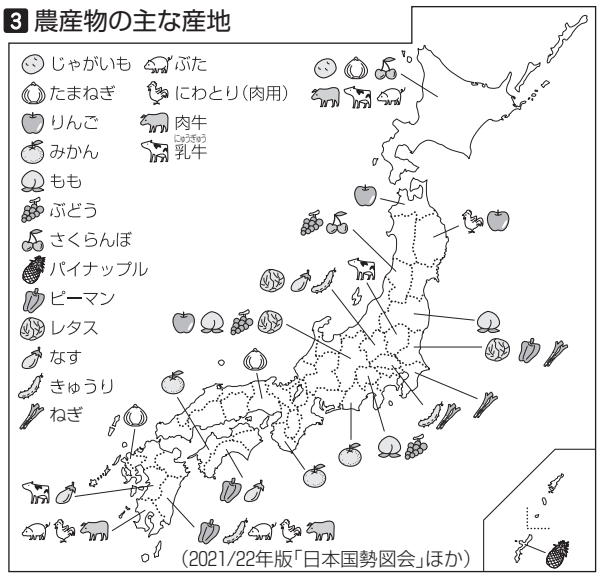
(2020年)　(2021/22年版「日本国勢図会」)

2 米の生産量と消費量の変化



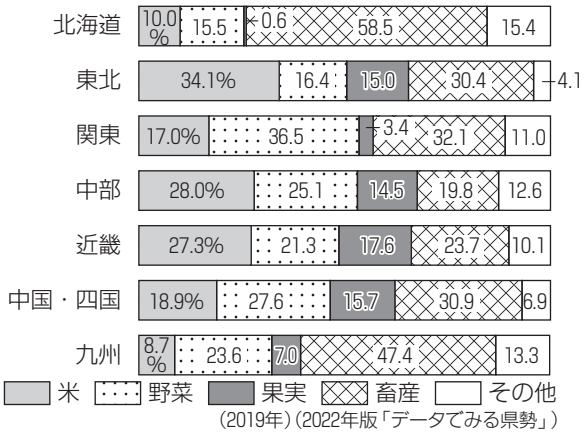
(2021/22年版「日本国勢図会」ほか)

3 農産物の主な産地



(2021/22年版「日本国勢図会」ほか)

4 地方別の農業生産額の割合



(2019年)(2022年版「データでみる県勢」)

ワーク

左のページを見ながら覚えましょう

●(　　)の中に正しい言葉を入れましょう。

1 日本の稲作

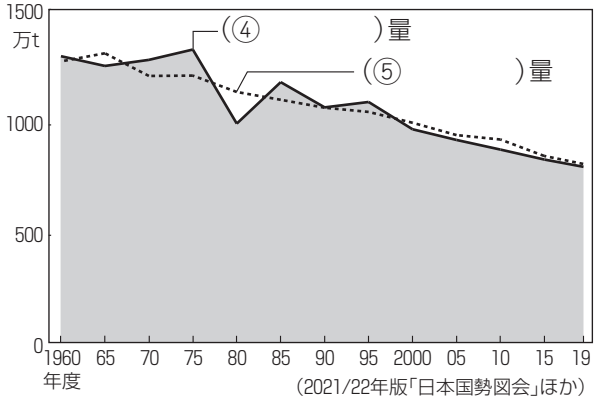
農業生産額の割合

(2019年)　　(2021/22年版「日本国勢図会」)

米の生産量の地方別割合

(2020年)　　(2021/22年版「日本国勢図会」)

米の生産量と消費量の変化

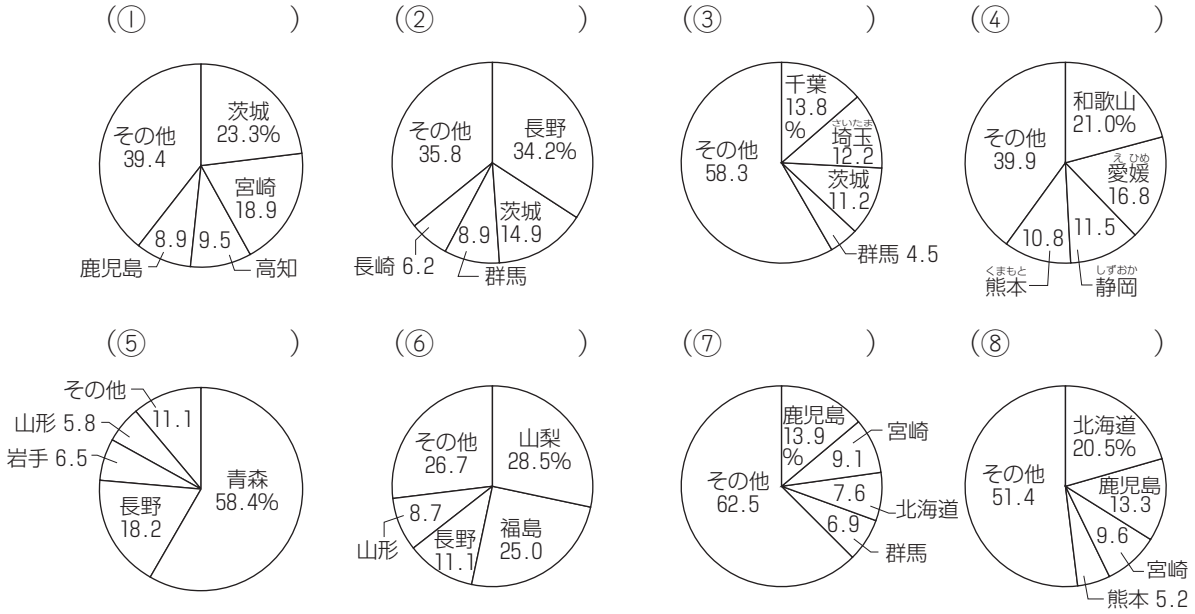


(2021/22年版「日本国勢図会」ほか)

2 日本の畑作と畜産

野菜・果実の生産量，家畜の飼育頭数の都道府県別割合

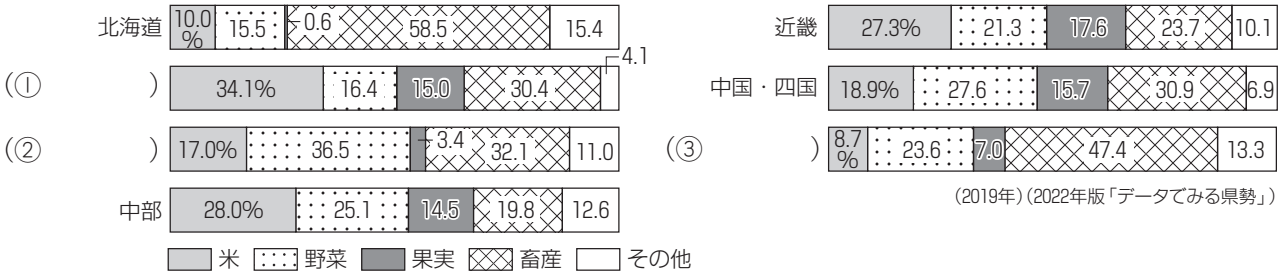
右から選ぼう　りんご　みかん　もも　肉牛　ぶた　レタス　ピーマン　ねぎ



(⑦, ⑧は2020年，その他は2019年)　　(2021/22年版「日本国勢図会」)

3 各地方の農業

地方別の農業生産額の割合



(2019年)(2022年版「データでみる県勢」)

定着問題

1 ＜日本の稲作＞　次の文章を読んで，下の問いに答えなさい。

> 米づくりは，日本の農業の中心です。米は全国でつくられていますが，特に，（　①　）地方では，全国の米の4分の1以上がつくられています。
>
> 農家の人たちの努力で②品質のよい米が③効率よくつくられるようになった一方，米の消費量が減り，米があまるようになりました。そのため，④米以外の作物を育てたり，米のいろいろな用途（ようと）を開発したりしています。

(1)　（　①　）にあてはまる地方名を書きなさい。

(2)　下線部②について，いろいろな品種をかけ合わせて，新しくよりよい品種をつくり出すことを何といいますか。

(3)　下線部③について述べた次の文中の（　　）に共通してあてはまる言葉を書きなさい。

・効率のよい米づくりには，地域の（　　）作業が重要です。地域でお金を出し合って機械を買い，（　　）で使うこともあります。

(4)　下線部④に対して，それまで育ててきた作物を，他の作物に変えることを何といいますか。

1

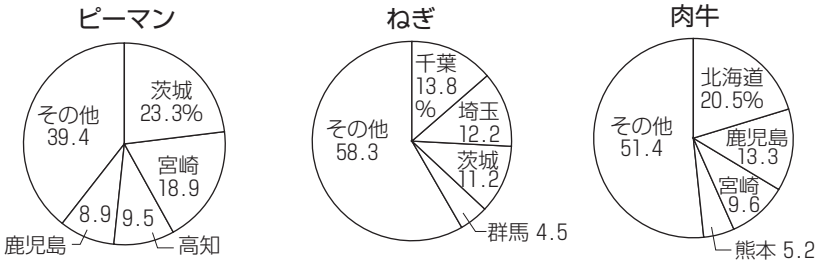
(1)

(2)

(3)

(4)

2 ＜日本の畑作と畜産＞　次のグラフは，野菜の生産量と家畜の飼育頭数の都道府県別の割合を表しています。下の問いに答えなさい。



（肉牛は2020年，その他は2019年）　（2021/22年版「日本国勢図会」）

(1)　ピーマンの生産量が多い上位4県のうち，宮崎県，高知県，鹿児島県では，冬でも温暖な気候を利用して，ほかの産地よりも早い時期に出荷しています。このような栽培方法を何といいますか。

(2)　ねぎの生産量が多い上位3県では，近郊農業がさかんです。農家にとって近郊農業はどのようなよい点がありますか。「輸送費」という言葉を使って書きなさい。

(3)　肉牛のグラフから読み取れる，肉牛の飼育がさかんな地域にあてはまるものを，次の中から選びなさい。

ア　大都市に近い地域　　**イ**　冬の平均気温が0℃を下回る地域

ウ　広い土地がある地域　　**エ**　一年を通して降水量（こうすいりょう）が少ない地域

2

(1)

(2)

(3)

3 ＜各地方の農業＞　はるかさんは，４つの道県の農業について調べました。下の問いに答えなさい。

A：畜産がさかんで，ぶたやにわとり，肉牛を多く飼育しています。ピーマンなどの野菜の生産もさかんです。

B：夏でもすずしい気候を利用して，レタスなどを夏に出荷している地域があります。りんごやぶどうなどの果物の生産もさかんです。

C：冬に雪がよく降り，夏には気温が上がる気候をいかして，米づくりがさかんです。農業産出額の50％以上を米がしめています。

D：広い土地を使って大規模な農業が行われており，農業生産額は全国で一番です。

(1)　A～Dの文にあてはまる道県を，次の中から選びなさい。

〔　北海道　　新潟県　　長野県　　宮崎県　〕

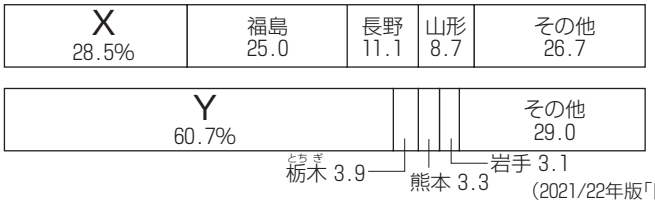
(2)　Bの下線部について，夏でもすずしい気候を利用して，ほかの産地よりも出荷時期をおくらせる栽培方法を何といいますか。

4 ＜日本の農業＞　右の地図を見て，次の問いに答えなさい。

(1)　ピーマンやきゅうりを，ほかの産地からの出荷が少なくなる冬から春にかけて出荷している地域はどこですか。地図中のA～Dから２つ選びなさい。

(2)　**資料１**は，ももの生産量と乳牛の飼育頭数について，都道府県別の割合を示したものです。X，Yにあたる道県を，地図中の**ア**～**エ**から選びなさい。

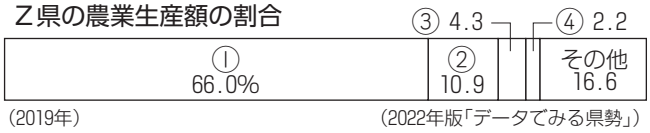
資料１



(3)　**資料２**中の①にあてはまるものを，次の中から選びなさい。

〔　米　　野菜　　果実　　畜産　〕

資料２　Z県の農業生産額の割合



(4)　地図中の▨はりんごの生産量の多い上位４県，▩はみかんの生産量の多い上位４県を表しています。みかんの生産量が多い県は，りんごの生産量が多い県と比べて，どのような特色がありますか。気候に着目して書きなさい。

3

(1) A

B

C

D

(2)

4

(1)

(2) X

Y

(3)

(4)

適性検査型問題

1　りょうまさんは，米づくりについて次のまとめをつくりました。下の問いに答えなさい。

A　米の生産量は，新潟県や北海道，秋田県で多い。	B　米づくりの効率化や品種改良が進められてきた。	C　日本では米の生産量が減少している。

(1)　Aについて，新潟県や北海道，秋田県で米づくりがさかんな理由を，**資料1**を参考にして書きなさい。

〔　　〕

資料1　3つの都市と全国平均の年間雪日数

項目／都市名	年間雪日数
札幌(さっぽろ)市(北海道)	124.4日
秋田市(秋田県)	108.9日
新潟市(新潟県)	69.9日
全国平均	35.0日

(2022年版「理科年表」ほか)

(2)　Bについて，りょうまさんは米づくりに関する労働時間について興味を持ち，**資料2**を見つけました。**資料2**について，下の問いに答えなさい。

資料2　10aあたりの米づくりの主な作業別労働時間の変化　(単位：時間)

	ア 苗づくり	イ 田おこし	ウ 田植え	エ 草取り	オ 水の管理	カ 稲(いね)かり・だっこく	その他	総労働時間
1970年	7.4	11.4	23.2	13.0	10.8	35.5	16.5	117.8
2019年	2.8	3.2	2.8	1.1	5.7	2.7	3.2	21.5

(農林水産省ホームページ)

①　1970年の総労働時間に対する，2019年の総労働時間の割合は何%になりますか。ただし，割合は小数第1位を四捨五入し，整数で表すこと。

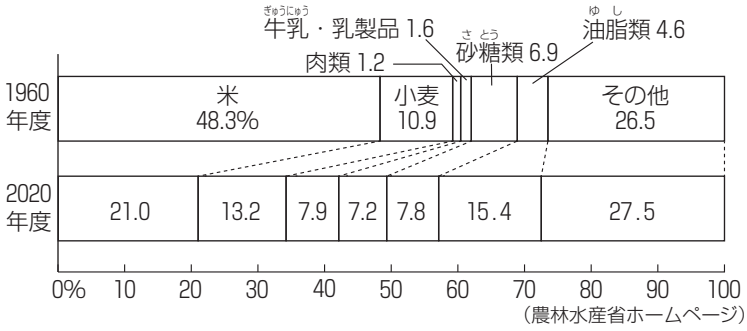
〔約　　%〕

②　1970年と2019年における労働時間を作業別にそれぞれ比べたとき，1970年に対する2019年の割合が最も大きいものを，**資料2**中の**ア**～**カ**から選びなさい。

〔　　〕

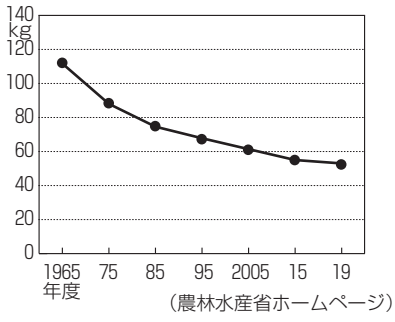
(3)　Cについて，米の生産量が減少している理由の一つとして考えられることを，**資料3**，**4**から読み取って書きなさい。

資料3　日本人の食べ物の割合の変化　(1人1日あたりの供給熱量(きょうきゅうねつりょう))



(農林水産省ホームページ)

資料4　米の消費量の変化 (1人1年あたり)

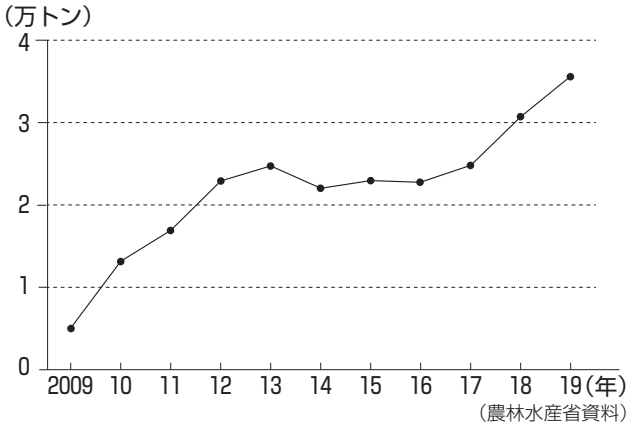


(農林水産省ホームページ)

〔　　〕

2 次の資料を見て，下の問いに答えなさい。

資料１　米粉の利用量の移り変わり



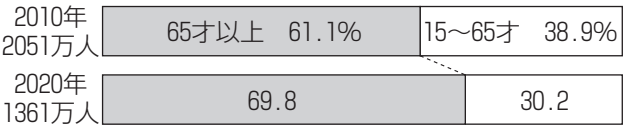
（農林水産省資料）

資料２　水田の種類別の面積(単位：万ha)

	主食用米	加工用米	米粉用米
2009年	159.2	2.6	0.2
2019年	137.9	4.7	0.5

(注)加工用米とは，みそ，玄米茶（げんまいちゃ）などに用いられる米。

資料３　農業で働く人の年齢（ねんれい）別の割合



（「日本国勢図会」）

(1)　**資料１**についてのべた次の文中の(　①　)～(　④　)にあてはまる数字を書きなさい。

> ・**資料１**を見ると，(　①　)年に約５千トンだった米粉の利用量が，(　②　)年には約３万６千トンになっています。(　①　)年と比べると約(　③　)倍に，(　④　)年と比べると約２倍になっています。

〔①　　②　　③　　④　　〕

(2)　**資料２**から読み取れることを，次の中から選びなさい。

ア　2009年の種類別の面積を見ると，「米粉用米」の水田の面積の割合は，全ての水田の90％をこえている。

イ　2009年と2019年の種類別の面積を比べると，「主食用米」の水田の面積が最も増えている。

ウ　2009年と2019年の種類別の面積を比べると，「加工用米」の水田の面積が1.5倍以上に増えている。

エ　2019年の種類別の面積を見ると，「加工用米」の水田の面積の割合は，全ての水田の90％をこえている。

〔　　〕

(3)　**資料３**から，農業で働く65才以上の人の数は，2010年から2020年にかけて，どのように変化しましたか。それぞれの年の65才以上の人の数を明らかにしながら，計算して書きなさい。

〔　　〕

(4)　**資料１・２**から，米粉用米の水田が増え，米粉の利用量が増えていることがわかりますが，主食用米の水田は減っています。主食用米の水田が減っている理由として考えられることを書きなさい。

〔　　〕

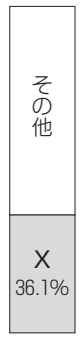
3 次の資料を見て，下の問いに答えなさい。

資料１　近畿地方の６府県の農業経営

	経営耕地面積(ha)	経営耕地面積の規模別面積の割合(%)			
		1ha未満	1ha以上3ha未満	3ha以上10ha未満	10ha以上
滋賀県	32,673	19.3	32.5	23.6	24.6
京都府	17,574	40.9	34.8	17.8	6.5
大阪府	5,794	68.8	25.8	4.4	1.0
兵庫県	44,075	44.4	37.3	12.3	6.0
奈良県	11,184	49.8	31.3	17.4	1.5
和歌山県	21,426	31.8	54.0	13.9	0.3

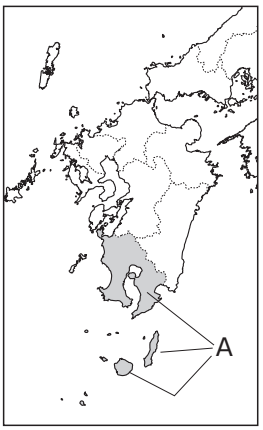
（農林水産省資料）

資料２　茶の生産がさかんな県

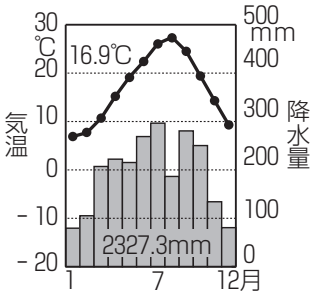


（2020年）
（2021/22年版「日本国勢図会」）

資料３



資料４　Xの県の県庁所在地の雨温図



（2022年版「理科年表」）

資料５

【茶の栽培に適した気候】
- ○１年間の平均気温が14～16度程度。
- ○夏の最高気温が40度より低く，冬の最低気温がマイナス５度より高い地域。
- ○昼夜の気温差があると品質が良くなる。
- ○霜が降りると品質が悪くなる。
- ○年間降水量が1300mm以上で，特に４～９月は多くの降水量が必要。（世界の平均降水量は約880mm）

(1)　**資料１**から読み取れることを，次の中から２つ選びなさい。

ア　滋賀(しが)県の経営耕地面積は，６府県の経営耕地面積の中で最も広い。

イ　京都(きょうと)府は，１ha未満の規模(きぼ)の経営耕地面積の割合が，京都府における他の規模よりも高い。

ウ　大阪(おおさか)府は，10ha以上の規模の経営耕地面積が約500haである。

エ　奈良(なら)県は，経営耕地面積の規模が大きくなるにつれて，その面積の割合は低くなる特徴(とくちょう)が滋賀県と同じである。

オ　兵庫(ひょうご)県は，和歌山(わかやま)県よりも１ha以上3ha未満の規模の経営耕地面積が広い。

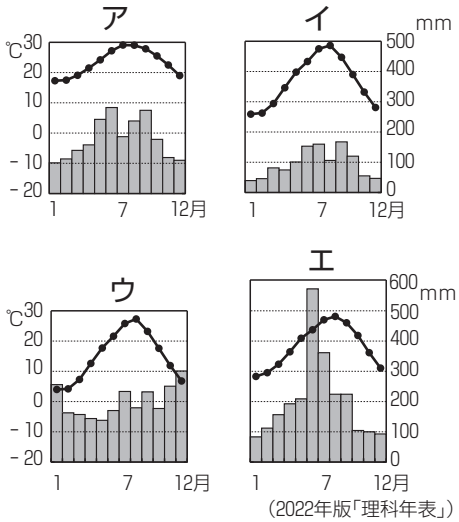
〔　　・　　〕

(2)　**資料２**中のXにあてはまる県名を書きなさい。

〔　　〕

(3)　**資料３**中のAも茶の栽培がさかんです。**資料４・５**を参考にして，右からAの県の県庁所在地の雨温図を選びなさい。

〔　　〕



（2022年版「理科年表」）

(4)　茶の栽培に適した地域の気候の特色をのべた次の文中の①・②にあてはまる言葉を，それぞれ選びなさい。

１年を通して①{　温暖　　冷涼(れいりょう)　}で，夏の降水量が②{　多い　　少ない　}。

〔①　　②　　〕

4 次の会話を読んで，下の問いに答えなさい。

くみか：ピーマンは，生産量の多い茨城県と宮崎県で，全国の生産量の約40％をしめているんだって。

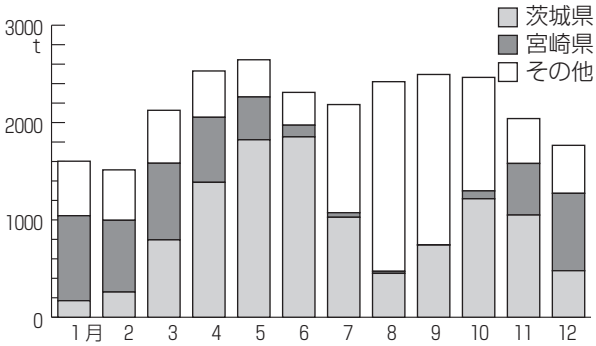
ゆうや：東京の市場に入荷された産地別のピーマンの量を月別に表した**資料１**を見てみると，月ごとに入荷している量や産地の県にちがいがあるね。

くみか：なぜ月ごとに入荷している県が変わるのか，その理由を調べてみようよ。

ゆうや：ぼくは，それぞれの県の県庁（けんちょう）所在地から東京までの道路の道のりを調べるよ。日本各地から野菜を東京に出荷するときに，主にトラックで輸送されることを授業で学習したよね。

くみか：野菜の生産と気候は関係があると思う。わたしは，それぞれの県庁所在地の気温を調べるわ。

資料１　ピーマンの月ごとの産地別入荷量



（2021年）　（東京都中央卸売市場ホームページ）

資料２　各県の県庁所在地から東京までの国道を使った最短の道のり

茨城県水戸（みと）市～東京	108.9km
宮崎県宮崎市～東京	1437.2km

（国土交通省ホームページ）

資料３　各県の県庁所在地の月別平均気温（℃）

	6月	7月	8月	12月	1月	2月
茨城県水戸市	20.3	24.2	25.6	5.6	3.3	4.1
宮崎県宮崎市	23.2	27.3	27.6	9.7	7.8	8.9

（2022年版「理科年表」）

(1)　茨城県からのピーマンの入荷の特色を，**資料１，２**を参考にして書きなさい。

〔　　〕

(2)　宮崎県からのピーマンの入荷の特色を，**資料１，３**を参考にして書きなさい。

〔　　〕

5 右の資料を見て，次の問いに答えなさい。

(1)　**資料１**から読み取れる，全国と比べたときの和歌山県と愛媛（えひめ）県に共通する特色を書きなさい。

〔　　〕

資料１　全国と和歌山県，愛媛県の農業生産額の内訳（うちわけ）

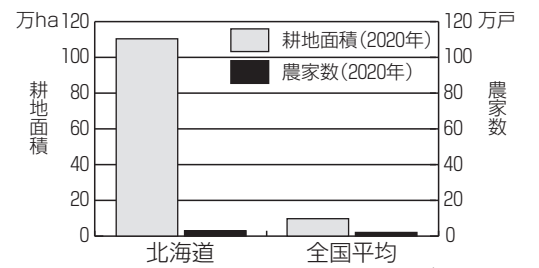
	農業生産額（億円）	農業生産額の内訳（億円）				
		米	野菜	果実	畜産	その他
全国	88,938	17,426	21,515	8,399	32,107	9,491
和歌山県	1,109	76	144	740	49	100
愛媛県	1,207	152	190	527	249	89

（2019年）　（2022年版「データでみる県勢」）

(2)　北海道の農業は，大型の農業機械を使って大規模に行われている点に特色があります。このような農業が行われている理由を，**資料２**を参考にして書きなさい。

〔　　〕

資料２　北海道と全国平均の耕地面積と農家数



※全国平均は，全国の合計の数値を都道府県の数で割ったもの。
（2022年版「データでみる県勢」）